

令和7年7月18日
北海道開発局

川の中の生きものを調べてみませんか

～令和7年度 全国水生生物調査の参加者募集～

北海道開発局における令和7年度全国水生生物調査の参加者募集について、お知らせします。
令和6年度調査には、2,993人の方に参加していただきました。令和7年度も多くの方の参加をお待ちしております。

環境省と国土交通省では、水生生物を指標として河川の水質を総合的に評価するとともに、環境問題への関心を高めるため、一般市民等の御協力を得て全国水生生物調査を実施しています。

河川に生息するヒラタカゲロウ類、カワゲラ類等の水生生物の生息状況は、その川の水質汚濁の影響を反映することから、水生生物調査は、実際に川の中に入って採取した水生生物により水質の判定を行うもので、誰でも簡単に参加できる調査です。

調査への参加を希望される方は、別紙の「全国水生生物調査に参加を希望される場合のお問合せ先」までご連絡ください。

令和6年度の調査結果（北海道開発局関係分）は、資料－1、資料－2をご覧ください。

また、全国の調査結果は、国土交通本省及び環境省から発表されています。（資料－3）
詳細は国土交通省のホームページをご覧ください。

（国土交通省 報道・広報URL）

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000268.html

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

建設部 河川管理課 低潮線保全官 熊谷 彰浩（内線 5323）

低潮線保全係長 熊谷 絵梨（内線 5970）

北海道開発局ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>



全国水生生物調査に参加を希望される場合のお問合せ先

令和7年度も下記の河川において、市民の方々の参加を得て全国水生生物調査を実施します。
各河川の調査時期・場所等については、下記の担当課までお問い合わせください。

河川名	部局名	担当課	電 話
石狩川(下流)	札 幌 開発建設部	公物管理企画課 〒060-8506 札幌市中央区北2条西19丁目	011-611-0328
後志利別川	函 館 開発建設部	工務課 〒040-8501 函館市大川町1-27	0138-42-7604
尻別川	小 樽 開発建設部	工務課 〒047-8555 小樽市潮見台1丁目15-5	0134-23-5195
天塩川(上流) 石狩川(上流)	旭 川 開発建設部	公物管理課 〒078-8513 旭川市宮前1条3丁目3-15	0166-32-1487
鶴川 沙流川	室 蘭 開発建設部	治水課 〒051-8524 室蘭市入江町1-14	0143-25-7045
釧路川	釧 路 開発建設部	治水課 〒085-8551 釧路市幸町10丁目3	0154-24-7250
十勝川	帯 広 開発建設部	治水課 〒080-8585 帯広市西5条南8丁目	0155-24-4105
網走川 常呂川 湧別川 渚滑川	網 走 開発建設部	治水課 〒093-8544 網走市新町2丁目6-1	0152-44-6471 0157-23-6118
留萌川 天塩川(下流)	留 萌 開発建設部	治水課 〒077-8501 留萌市寿町1丁目68	0164-43-5515

令和 6 年度全国水生生物調査の概要（北海道開発局関係分）

（１）調査方法

本調査では、河川に生息する水生生物のうち、①全国に広く分布し、②分類が容易で、③水質に係る指標性が高い、２９種を指標生物としました。

河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、Ⅰ（きれいな水）、Ⅱ（ややきれいな水）、Ⅲ（きたない水）、Ⅳ（とてもきたない水）の４階級で水質の状況を判定しました。

（２）調査結果

○参加者数

令和 6 年度の参加者は、２，９９３人でした。

参加者数	２，９９３人
参加団体数	７７団体
調査地点数	５１地点

○ 水質判定結果

令和 6 年度は、全調査地点の 90% の地点で「きれいな水」と判定されました。

		地点数	割合
Ⅰ類	きれいな水	46地点	90%
Ⅱ類	ややきれいな水	4地点	8%
Ⅲ類	きたない水	1地点	2%
Ⅳ類	とてもきたない水	0地点	0%

※うち 12 地点は、河川管理者による実施

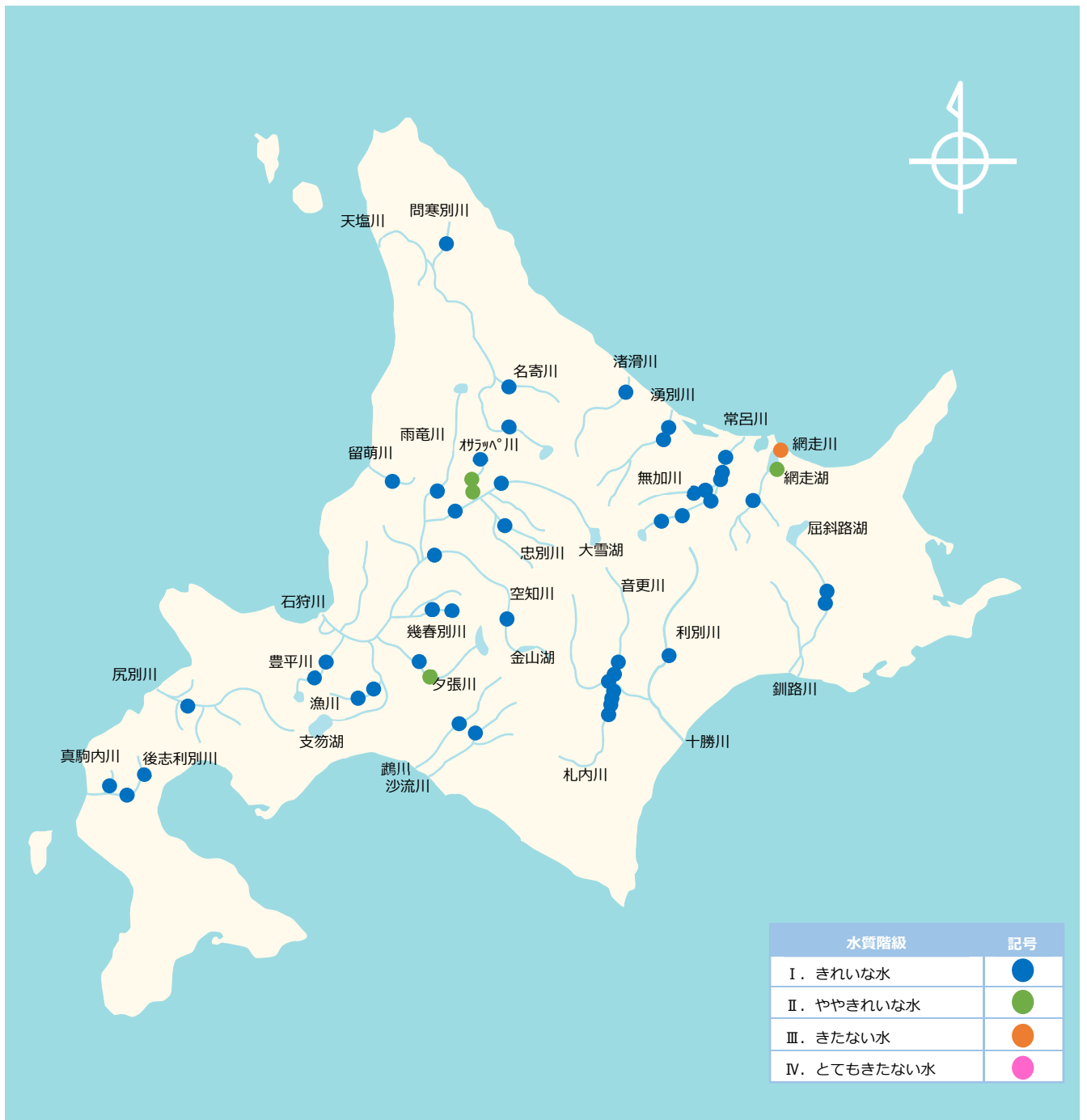


後志利別川水系 後志利別川



尻別川水系 尻別川

令和6年 水生生物調査地点位置図<北海道>

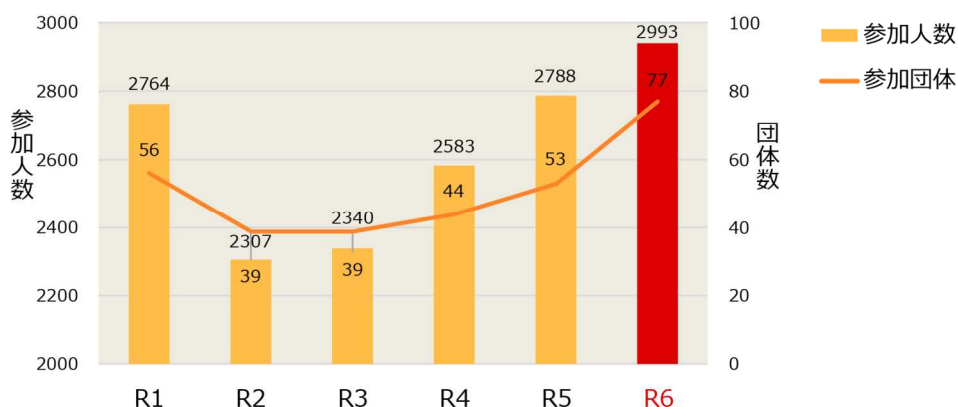


令和6年度全国水生生物調査結果（北海道開発局関係分）

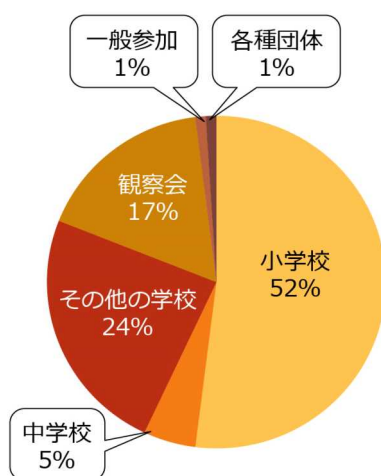
1. 参加人数及び団体数

令和6年度の参加人数は、延べ2,993人（77団体）となりました。参加団体別参加人数は小学校が最も多く、次いで高校の順でした。

○ 参加人数と参加団体数の推移



○ 参加団体の構成比

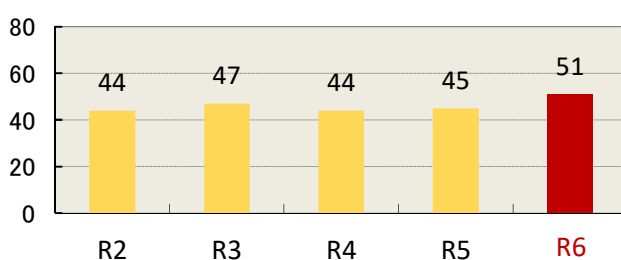


※高校は「その他の学校」、応募学生等は「観察会」として計上しています。

2. 調査地点数

令和6年度の調査地点数は51地点でした。（うち12地点は、河川管理者による実施）

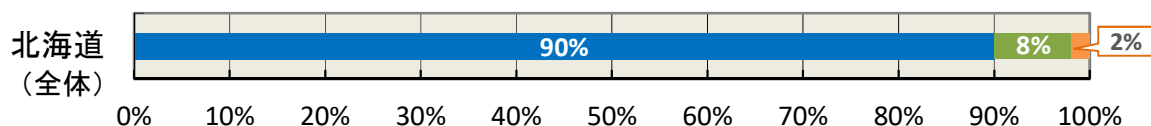
○ 調査地点数の推移



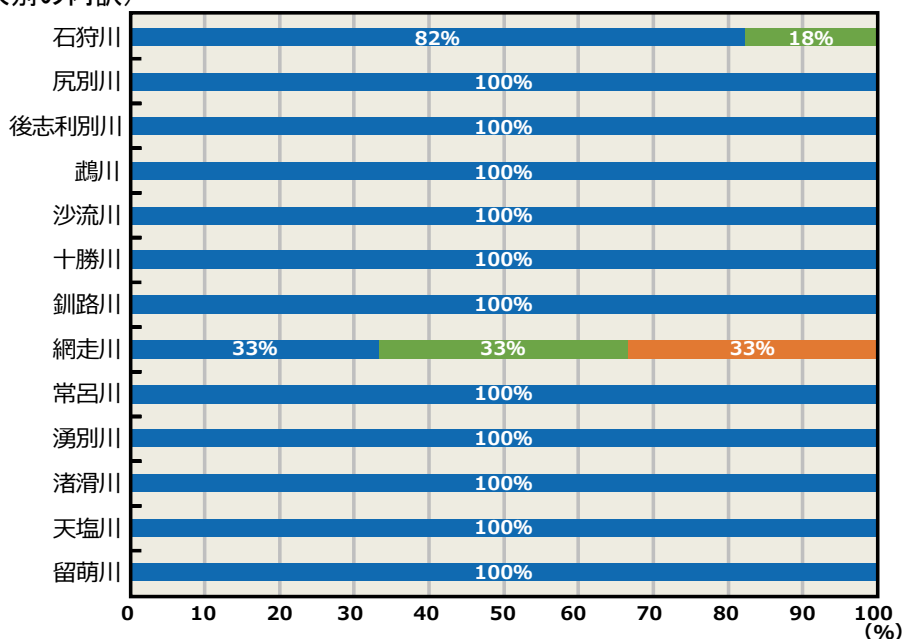
3. 河川別水質階級構成（地域別の水質の状況）

令和6年度は、水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点が90%、Ⅱ（ややきれいな水）が8%、Ⅲ（きたない水）が2%、Ⅳ（とてもきたない水）に判定された地点は確認されませんでした。

○令和 6 年度 河川別の水質階級構成



(水系別の内訳)

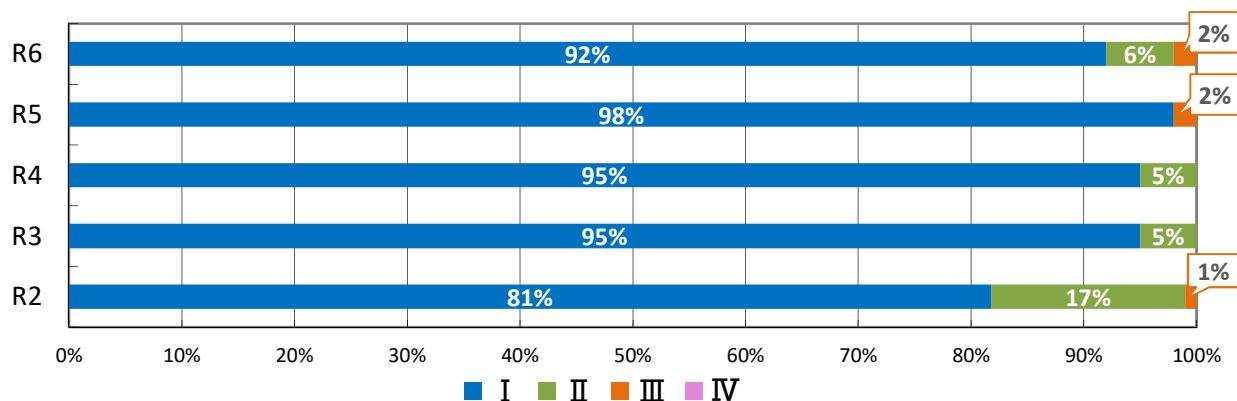


- I (きれいな水)
- II (ややきれいな水)
- III (きたない水)
- IV (とてもきたない水)

4. 水質階級構成比の年次推移

過去5か年の推移を見ると、水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点は、令和2年度を除き9割以上を示しています。

○ 水質階級構成比の年次推移



同時発表：環境省

令和 7 年 6 月 17 日
水管理・国土保全局河川環境課

川の生きものを見つけよう！

～令和 7 年度全国水生生物調査を実施します～

国土交通省と環境省では、川の生きものを指標として河川の水質を総合的に評価するため、地域の皆様のご協力をいただいて『全国水生生物調査』を実施しています。

令和 7 年度も、夏休み期間を中心に調査を実施しますので、是非ご参加下さい。また、令和 6 年度の結果をとりまとめましたので、お知らせします。

※開催日や場所等の詳細については、各地方整備局等又は各都道府県の環境部局までお問い合わせ下さい。

(問い合わせ先)

- ・各地方整備局等の窓口（一級河川国管理区間に関するもの）

http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyoku/suisitu/toiawase.html

- ・各都道府県の環境部局（上記以外）

https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/etsuran/list_pref.html

【全国水生生物調査とは】

(1) 調査概要

○サワガニ、カワゲラ類等の川の水に住む生きもの（水生生物）が生息しているかどうかで水質を判定

○子どもたちにもわかりやすく、特別な機材を用いないため、誰でも簡単に参加可能

○身近な自然環境に接することで、身近な環境問題への関心を高めるきっかけ

○昭和 59 年度から国土交通省・環境省が実施

(2) 調査方法

○河川に生息する水生生物のうち、[1]全国各地に広く分布し、[2]分類が容易で、[3]水質に係る指標性が高い、29 種の指標生物を調査

○河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、Ⅰ（きれいな水）、Ⅱ（ややきれいな水）、Ⅲ（きたない水）、Ⅳ（とてもきたない水）の 4 階級で水質の状況を判定

○下記国土交通省ウェブサイトでも本調査の紹介をしておりますのでご覧ください

<https://www.mlit.go.jp/river/kawanavi/enjoy/vol1.html>

(3) 調査期間

7～8月を中心に実施



【令和6年度 調査結果概要】（詳細は別添をご覧ください。）

○参加者数・参加団体・調査地点数

令和6年度の参加者は 38,444 人（令和5年度 36,905 人）でした。

	参加者数	参加団体数	調査地点数
一級河川国管理区間	13,480 人	324 団体	372 地点
その他の河川※	24,964 人	725 団体	1,011 地点
合計	38,444 人	1,049 団体	1,383 地点

※一級河川都道府県管理区間及び二級河川等（一級河川国管理区間以外）

○水質判定結果

令和6年度は、全調査地点の 90%の地点で、Ⅰ（きれいな水）又はⅡ（ややきれいな水）と判定され、令和5年度（89%）より1ポイント高くなりました。

	一級河川	その他の河川	全調査地点
Ⅰ きれいな水	68%	63%	64%
Ⅱ ややきれいな水	28%	26%	26%
Ⅲ きたない水	2%	4%	4%
Ⅳ とてもきたない水	0%	2%	2%
判定不能	1%	5%	4%

※四捨五入による端数処理のため内数の合計が 100%にならないことがあります。

※判定不能：指標生物が見つからなかった場合等

【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

企画専門官 前田 裕太（内線 35441）

係 長 木村 ほのか（内線 35482）

TEL 03-5253-8111（代表）、03-5253-8447（直通）

環境省 水・大気環境局 環境管理課 環境汚染対策室

室 長 鈴木 清彦

室長補佐 野口 宏

担 当 鍛冶 尚寛

TEL 03-3581-3351（代表）、03-5521-8314（直通）



1. 参加人数及び参加団体数

令和6年度の参加人数は38,444人であった。
うち、一級河川※¹は13,480人であり、その他の河川※²は24,964人であった。また、参加団体数は1,049団体で、うち一級河川は324団体であった。
参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで各種団体、観察会の順番であった。
都道府県別の参加者数では岐阜県が最も多く、次いで岩手県、北海道の順番であった。

※1 一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）
※2 一級河川都道府県管理区間及び二級河川等※1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	うち一級河川
1	岐阜	4,248	0
2	岩手	3,595	111
3	北海道	2,952	2,917
4	鳥取	2,650	2,627
5	福島	2,083	34

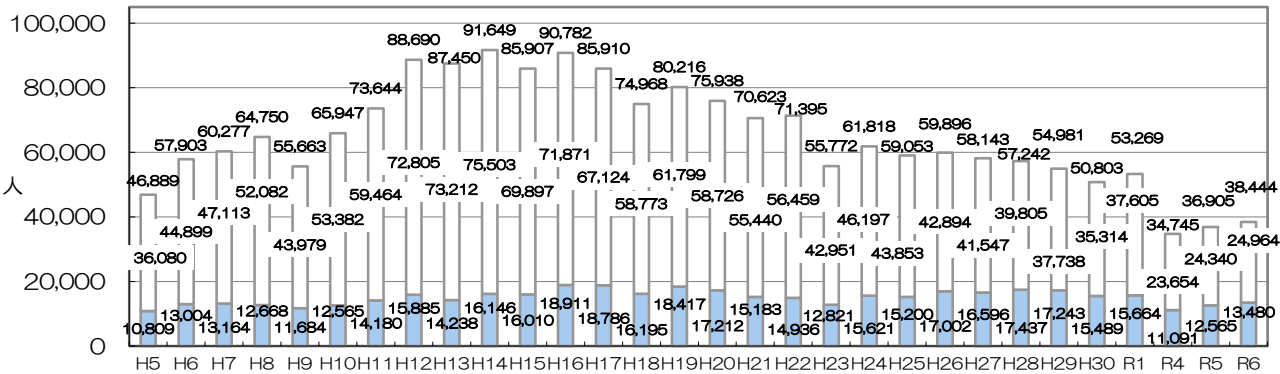


図-1 参加人数の推移

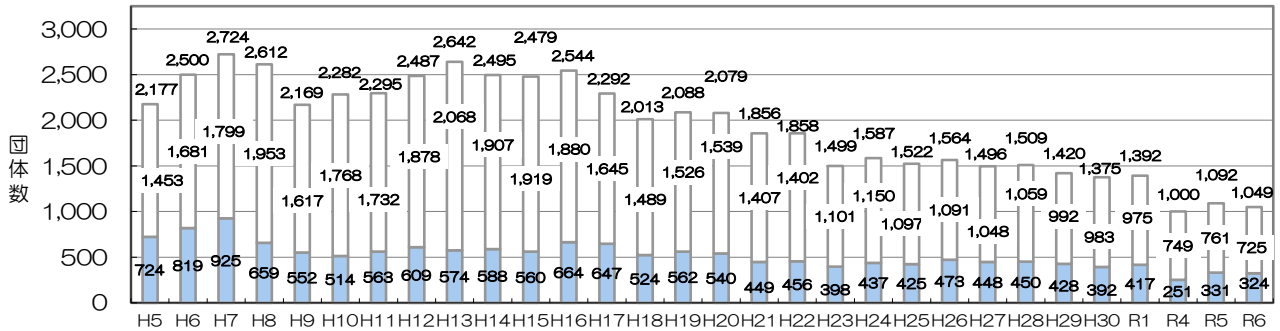


図-2 参加団体数の推移

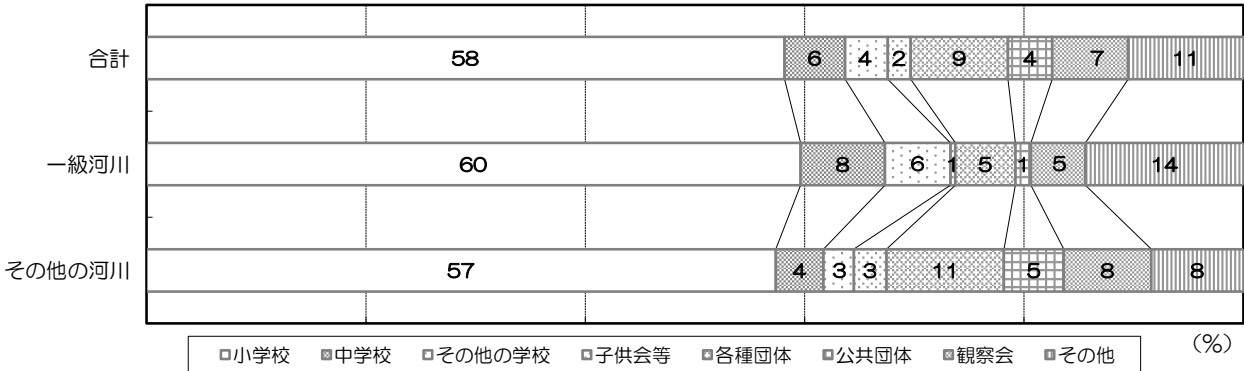


図-3 参加人数の団体種類別構成比

※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

2. 調査地点数

調査地点数は1,383地点であった。

内訳は、一級河川は372地点、その他の河川は1,011地点であった。

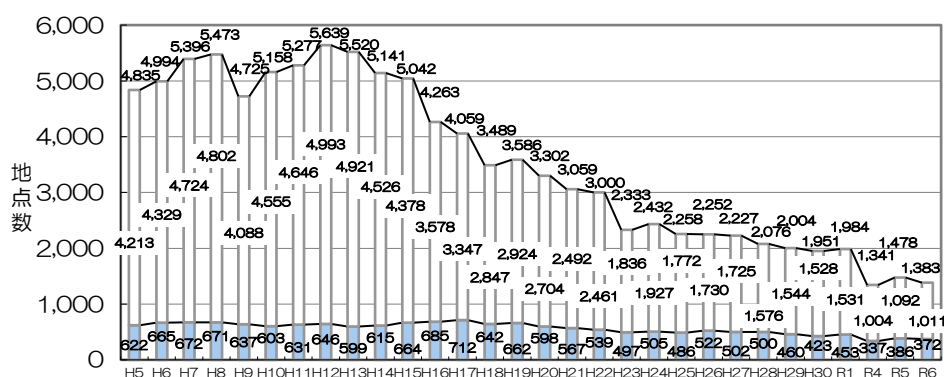
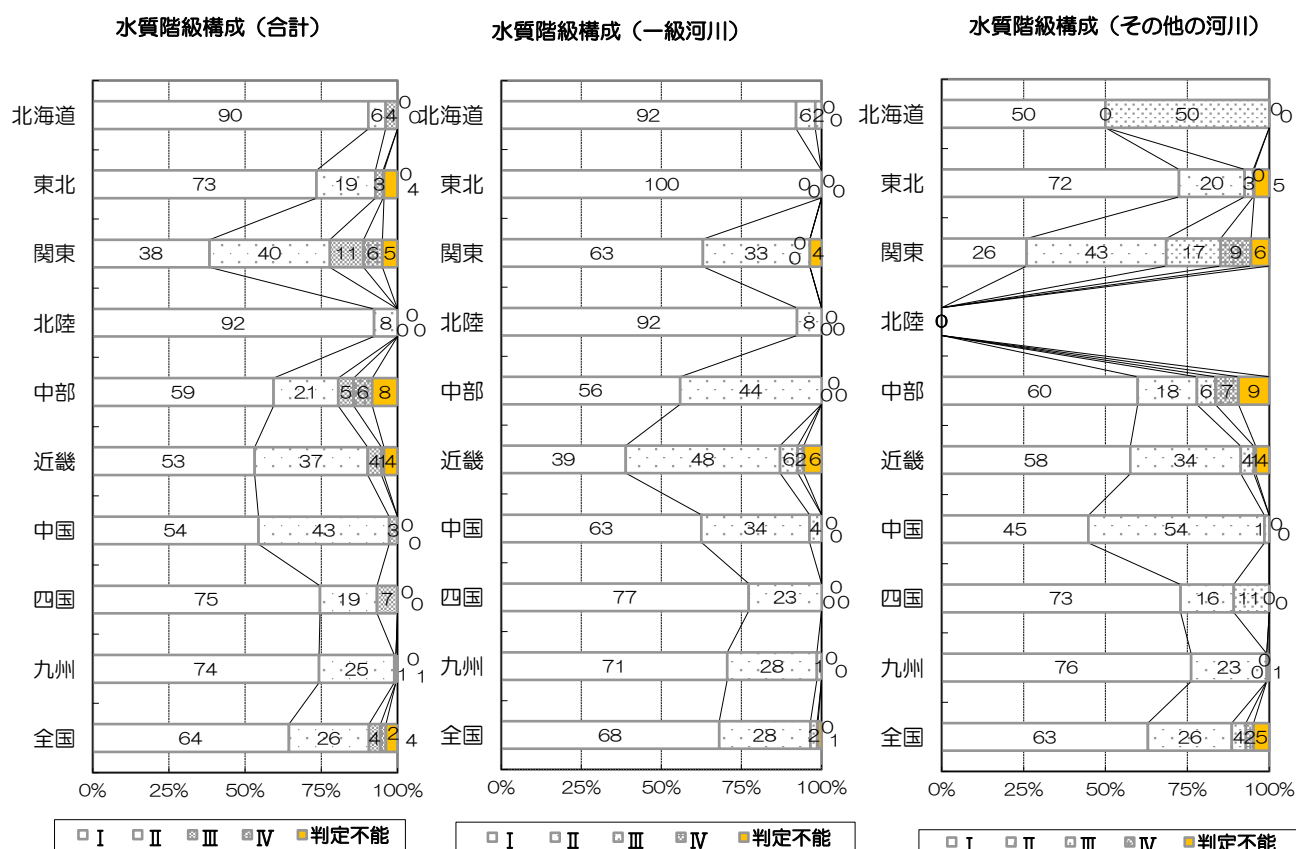


図-4 調査地点数の推移

3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状態を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると思われる。

令和6年度は、全国で水質階級Ⅰ（きれいな水）と判定された地点が64%、Ⅱ（ややきれいな水）が26%、Ⅲ（きたない水）が4%、Ⅳ（大変きたない水）が2%であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

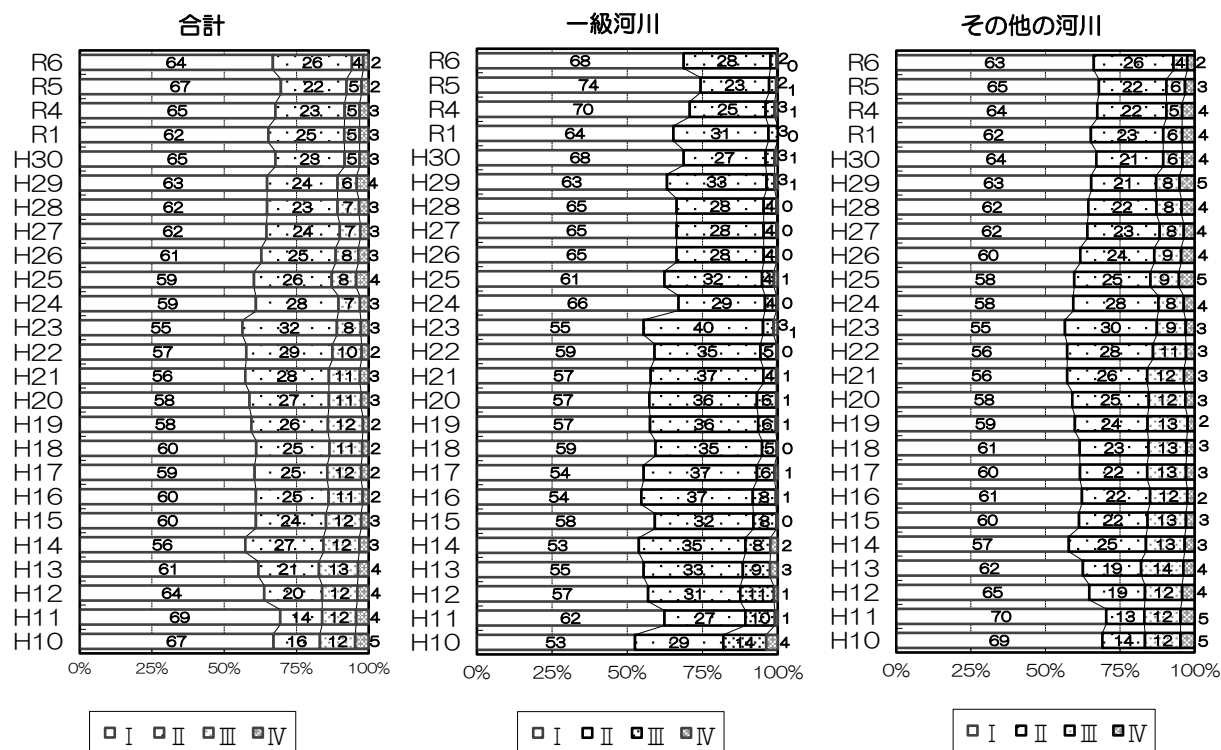
図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。

平成11年度をピークに、Ⅰ（きれいな水）と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、平成14年度以降は55～65%前後でほぼ横這いとなっている。本年度は、Ⅰ（きれいな水）と判定された地点の割合は64%であった。

なお、年次ごとの調査地点については相違しており、必ずしも同地点を比較したものではない。

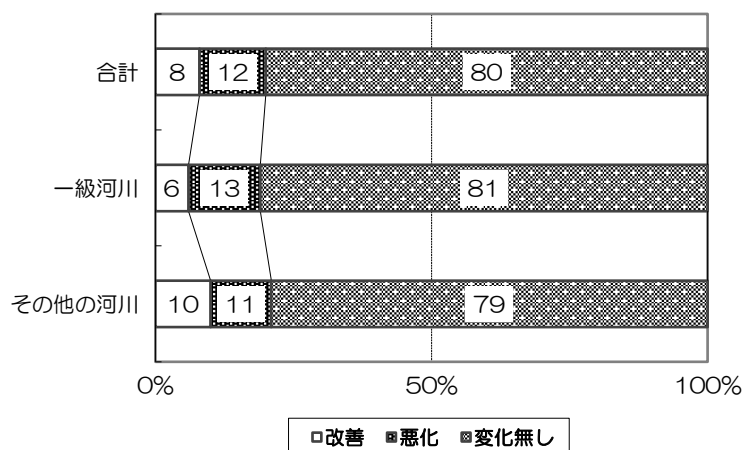


※1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
 ※2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前の厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（R5）との比較

前年度と同じ地点で調査された761地点について比較すると、8%の地点が改善、12%の地点が悪化、80%の地点が同じ水質階級であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較